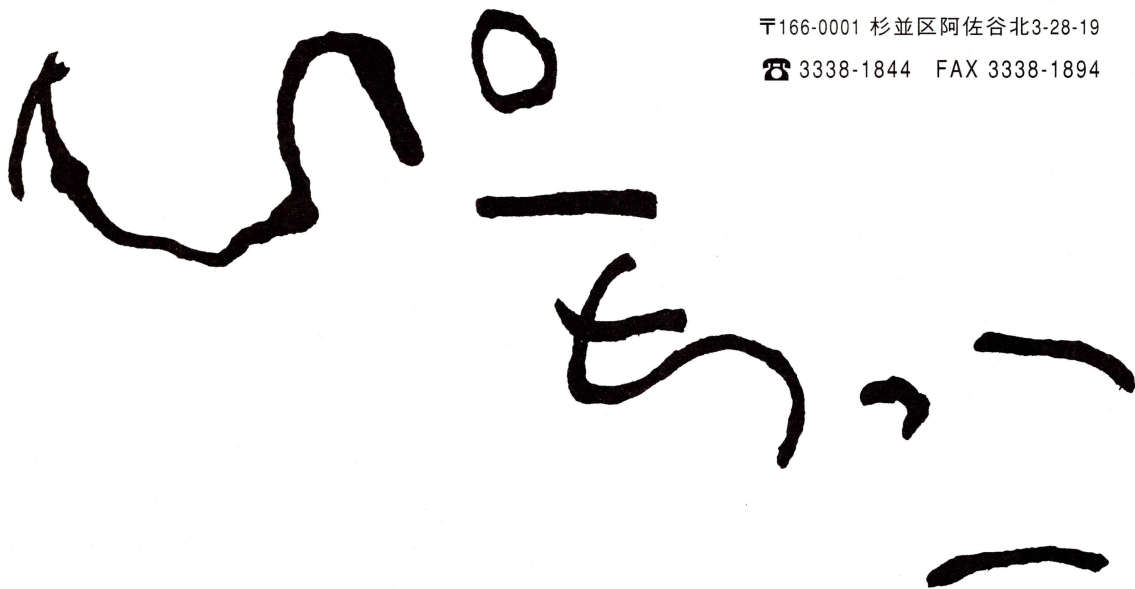


発行 社会福祉法人 聖友ホーム  
 聖友学園 (児童養護施設)  
 〒166-0001 杉並区阿佐谷北3-28-19  
 ☎ 3338-1844 FAX 3338-1894



●5月2日 天皇・皇后両陛下の御視察がありました

目次 ●「天皇・皇后両陛下の御訪問」社会福祉法人 聖友ホーム理事長 床次瑞彦 … 2

●ふわふわ …………… 4

●行幸啓 聖友乳児院 …………… 6

●あっちこっち …………… 10

●このゆびとまれ・もぐもぐ …………… 11

●e t c …………… 12

## 『天皇・皇后両陛下の御訪問』

社会福祉法人 聖友ホーム

理事長 床 次 瑞 彦

緊張し、学園前でお迎えを待つ私共に「お車が環七から早稲田通りに入った」と連絡の音が聞こえ、私の心臓はリストの「鐘」のように鳴りました。白バイと先導車の次に、両陛下のお車が静かに学園前に入ってきました。

先に皇后陛下が、次に天皇陛下がお降りになり、にこやかにお並びになった所に御礼を申し上げますと、なごやかに会釈してくださいました。両陛下の優しさに、不思議に私の心臓は落ち着き、学園の子どもの部屋にご案内申し上げました。外の階段を上がると、道路でお迎えしている町会の方々の大歓声が起こり、その都度両陛下は立ち止まられてお手を振られました。二〇二号室に入り、五分間、聖友ホームの歴史と現状のご説明が終わると直ぐに幼児たち（年長は学校）が口々に「こんにちは」と入って来ました。両陛下はお座りになり、玩具の電車をレールの上に乗せたりして遊んでくださいました。とても人見知りのする子がいて、泣き出したら保育士が隣の部屋に連れて行く手

筈にしていきましたが、なんとその子が自分から皇后陛下に近づき、お膝に寄り掛かりました。

時間が来ても遊んでくださっている両陛下に「次の部屋に」と申し上げ、子どもたちもバイバイと手を振り、両陛下もにつこりお手を振られながら次の部屋をごらんになりました。

次の乳児院に行く時も又々大歓声がありました。乳児院に入る時には、手の消毒をしなくてはいけないのですが、私は忘れてしまい、侍従の方から注意され私はバツハの「遁走曲」のような気分になりましたが、お詫びしお願い申し上げます。すぐお戻りになり、お手の消毒をしてくださいました。皇后陛下は、私のミスで遅れた分を目立たないように少し小走りされ、天皇陛下の後について来てくださいました。

幼児たちの部屋にお入りになられると両陛下はお座りになり、手をとってあやしてくださり、何人もの職員に子どものことなどをお話しかけてくださいました。

皇后陛下の幼児を抱いてあやしてくださいました。保育士たちは涙ぐんでしまい、そしてここでも不思議なことが起こりました。人になつきにくい子がいて、お父さんが来ても、初めは泣き出したりする事があるのに、その子が自分で両陛下の方に歩いて行き手をとっていただくと、嬉しそうな顔をしたので一同驚いてしまいました。

最後に会議室に入ると、まず初めに「長い間、大変ご苦勞様でした」のお言葉を賜りました。そのお言葉を伺い私は戦中、戦後の苦しい時代を大勢の子どもをかかえて共に過ごしたホームの人たちがどんなに感激することかと、胸が一パイになりました。両陛下からのご質問は、職員勤務交替の方法や、何故産院をやめたのですか等々、お詳しいのに驚きました。お帰りの折、乳児院前の公園には大勢の町会の方々がおられ、両陛下が幼児たちと握手をされる度に歓声が上がります。ものすごい大歓声の中でお車にお乗りになる前に、私に「ホームの皆さんにこれからもお願いしますと伝えて下さい」とのお言葉を賜りました。そしてお車は町会の皆さんが、お揃いのハッピー姿で日の丸の小旗をふっている中を、ゆつくりと窓をお開けになったまま、お手を振られながらお帰りになりました。

初め、宮内庁の加地課長から「いつものそのままの姿でお迎えください、それ



がご視察の目的でもあるのですから」のお話があり、私共はほんの一部の手直しにとどめ、ありのままの状態でお迎え申し上げ、又お花など、全て地元で購入しました。

後日宮内庁に御礼に参上した折、「今回のような熱烈な地元の方の歓迎があったのは、今までには数回しかなく、町会の方々がよほど手回しがよかつたからでしょうね」とお話があり、高村会長はじめ町会の皆様、本当に有難うございました。

当日は、石原代議士・厚生省の眞野局長・東京都の神藤局長・今村局長・又、大勢の方々がおいでくださいました。

もとより、宮内庁・皇宮警察・厚生省・東京都・警視庁・杉並警察署・杉並消防署・阿佐谷児童館・神明宮・都営住宅・その他多くの方々の御尽力をいただいたからこそ、お迎えすることが出来たので、関係者の皆様方に心から厚く御礼申し上げます。

五月二日から、かなりの日が経った今日でも、ホーム一同、ご慈愛の温かさに包まれています。私はベートーベンのヴァイオリン協奏曲の一部に「大きな愛に包まれたいたわりの温かさ」を感じるのですが、今度の両陛下からいただいたものと同じ温かいオーラとなり、花のワルツが初夏の風に乗るに広がるように、人々の心の中に「愛といたわり」の花がより多く咲き、この阿佐谷の子どもたちが健

やかに育ち、人類の平和にもつながることを願う努力したいと思えます。

**聖友ホーム略歴**

聖友ホームでは、保護者が病気等で家庭で養育することが困難な乳幼児と小・中高生を、東京都（児童相談所）の依頼によりお預かりし、職員と共に生活している。

大正十二年、看護婦・助産婦であった創立者の床次桂子（私の母）が渋谷で産院をしていた所に関東大震災が起り、多くの妊婦と乳幼児を収容したのがはじまり。母の妹キミも協力する。

昭和十三年、社会事業の認定を受く。

十六年、阿佐谷北六丁目に移転。その後父（真広）が経営していた鉱山を売却し六丁目などの不動産を購入して社会事業の基本財産とした。

十八年、母子家庭保護のため、日本母子協会を設立した。戦後虐待防止などの活動も行った。

二十年、甲府に疎開し年末に帰京。父は対外面を担当、特に食糧の獲得に奔走した。

二十七年、全財産を寄附し社会福祉法人となる。松山児童遊園地を杉並区と共同で建設公開（後に杉並区に寄附）。

二十八年、現在地（阿佐谷北三丁目）に建築中の建物が全焼、止むなく六丁目を処分し、再建築した。

四十二年、診療所を廃止。  
四十九年、乳児院（定員四十二名）を、

六十二年、学園（定員五十名）を、共に鉄筋コンクリート三階建に改築した。尚、前理事長床次八重より建築資金の寄附を受けた。

今日まで、ご援助、ご協力くださった多くの方々に心から感謝申し上げます。を置きます。



**★ぴーちっこ編集委員会より★**

2000年ミレニアムの年に天皇皇后両陛下をお迎えすることが出来ました。今号は特別号として当日の様子についてを、当法人の理事長、乳児院職員と共に、ぴーちっこ前半でまとめさせていただきました。施設にとりまして大変名誉なことであり職員一同、気を引き締め直し今後子どもたちの幸せの為に最大限の努力を：という覚悟でおります。

皆様のご意見ご感想等お待ちしております。又、コラムに取り上げてほしい話題、ぴーちっこに対するご意見、ご要望等、お手紙・FAXでいつでも受け付けております。

ふわ

ふわ

平成十二年五月二日、両陛下が学園を訪問される。

2階の部屋で幼児9名が両陛下をお迎えすることになりました。報道陣に囲まれて「なんだ！なんだ！」という顔をして、カメラの方をじっと見ている子もいれば、全くおかまいなしに目の前の電車のおもちゃを手にして遊びだす子も・・・。  
そんな子どもたちそれぞれに、ちよつとわくわくしたひとときのようでした。

「あら？ いつの間に・・・」  
ふと気がつくと、天皇陛下のおひざにちよこんと座ってニコニコのまー君。  
普段は担当の職員以外のところには、あまり寄っていかない子なのに。

こつちではみつちゃん。  
皇后陛下に近寄ったと思ったら、いきなりほっぺにチユツ!!

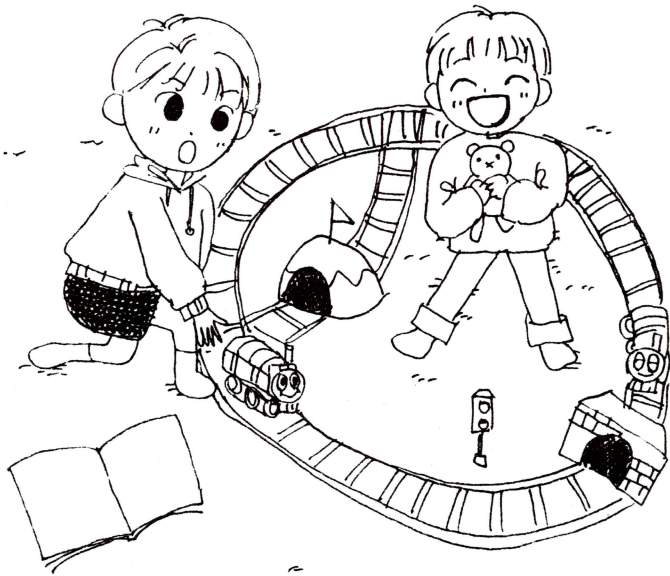




職員は一瞬冷汗をかきました。が、両陛下のあたたかいほほえみに、ほっといたしました。

「あの宝物いれ、かわいい」と皇后陛下のバックがとつても気に入ったあみちゃん。

「こうちゃん、今日はなにをして遊んだの？」  
「トーマスと新幹線。…あのね、おばちゃんの前ね、ケーキがのつかってた。」  
ボクの大発見、誰かに教えたくてしようがないといった様子のかうちゃん。  
…麦わら帽子や野球帽だったら帽子ってわかったのに…。  
皇后陛下のお帽子、ボクの目にはまっ白いクリームたっぷりのケーキにしか見えなかつたんだね。



お帰りの前に子どもたちとバイバイのタッチのサービスをしてお別れする皇后陛下。子どもたちもニコニコ笑顔！

「帰るとき、おばちゃんがボクのおててをポンとしたよ。こんどいつ来る？」

緊張しているのは職員ばかり。そろそろ終わりに近づき、無事お別れができますようにと心の中で祈る職員の前で、  
ポカッ!!  
「エ〜〜ン」  
おっとケンカが始まっちゃった。  
「ボクが遊んでたおもちゃをきんちゃんがつたの…。ボクのなのに…」

# 天皇・皇后両陛下のご視察について

聖友乳児院・院長 濱口 一雄

「こどもの日」にちなんで「両陛下の訪問」のお知らせを受けて以後、何回か打ち合わせを重ね、緊張と不安の中で当日を迎えました。

五月晴れの空に、元気に鯉のぼりが泳ぐ聖友ホームの周りには、近所の方々を中心に大勢の人が、日の丸小旗を持ちながら待機し、時間とともに道路にあふれるばかりの状態になって来ました。



午前十時警視庁白バイと宮内庁先導車に続き、両陛下のお車が到着しました。旧中杉通りを曲るところから沿道を埋めつくした大勢の人々が振る日の丸小旗の音と、歓迎のざわめきの中を両陛下おそろいで車から道路にお立ちになられると、今迄のざわめきが大きな歓声に変って来ました。両陛下にはこやかに手を振り会釈をなさると、その都度一段と大きな歓声

が湧きあがりました。

小さな法人でこの狭い地域の中に、両陛下おそろいでおいでになられるということでは、地域の皆さんを初め聖友ホームにとつて、この上ない名譽なことであり関係者、法人役員共々、感激の中でお迎えいたしました。

お迎えの挨拶の後、聖友学園の二階居室において、法人及び両施設の概要説明を行い同じフロアで遊ぶ子ども達と予定の時間を過ぎたから乳児院へ移動いたしました。

乳児院では一階いちご組で幾人もの子どもたちにふれ、職員一人一人にねぎらいのお言葉をかけられました。次いで二階も組に移動され、広いプレールームで大勢の子ども達が遊んでいる中に入りになり、職員や子どもと膝をつき合せながら子どもの差し出す玩具を受けとられたり他の子に手わたされたり、また皇后陛下に抱かれた子どもは、陛下のお顔にふれたり、お手元の小さなバックに興味を持ちいたずらする子などが居たりして、通常の生活と同じようにのびのびとした状態でした。この間、両陛下とも終始にこやかなほゝ笑みと優しいまなざしで、大勢の子どもと職員一人一人に声をかけられ、とても楽しそうにお過ごしになられました。子どもたちとの楽しいひとときの後、応接室において両陛下のお休み時間を頂戴し、理事長・両施設長にご下問が行われ、施設入所乳幼児の家庭、両親、子どもたち自身のことに関して質問が出されました。内容が非常に、巾広く施設の実状をよくご存知なのは、日常の公務がお忙しい中を驚くばかりでした。限られた時間ではありましたが、ゆつくりとご説明申し上げることができたこと



は、私共にとつてこの上ない喜びでした。お帰りの際には、玄関でお見送りする関係者一人一人にお言葉をかけられ、幾人かの子ともと握手やハイタッチなどなさり、にこやかにお出になられました。

乳児院前の小さな公園には、大勢の人達が山なりになって日の丸小旗をふり、大きな声で「お身体を大切に」、ありがとうございました。など歓声が止まりませんでした。

予定時間もありお車に乗られました。最後まで窓を開け、沿道の人々に手をふられながら帰途につかれました。

私共、法人と施設にとりましては今迄にないこのような名誉ある大事業をお受けすることができ、大過なく天皇・皇后両陛下をお迎えすることができました。これは、宮内庁を初め多くの関係機関の皆様がお力添え下さったこと、また地域の皆様のご協力によるものと深く感謝申し上げます、心から厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。



#### ◇いちご組保育士 Y・I

朝からたくさんの方が集まって来て、何となくざわざわしていました。午前十時、そろそろかな：子どもたちは普段と変わり無くおもちゃで遊んだり、部屋中を駆け回ったり、眠くなつてコックリコックリしたりしていました。

「いらつしやいました！」と言う声がして、ゆつくりとにこやかに両陛下がいちご組の保育室に入つていらつしやいました。

最初に一人一人の子供について陛下がお尋ねになりました。

「お子さんはおいくつですか？こちらのお子さんは？」それぞれ「一才です」「十一カ月です」「五カ月です」と答えました。

「随分小さいですね」と子どもの顔を覗き込む。「お母さんが病気のお子さんが一番多いと聞きましたが、このお子さんのお母さんも病気ですか？」と心

配そうにお尋ねになりました。「はい、そうです」。

そして、次は私達職員に対して「勤められて何年ですか？」とお尋ねになりました。「八年です」と答えると『それだけ勤めていられると大変なこともたくさんありでしょうね。どんなことが大変でしたか？』とお尋ねになったので、「新生児など、小さいお子さんが夜間具合が悪くなった時に、大変でした」と、お答えしました。『さきほど伺ったお隣の大きなお子さんも、一緒に遊びますか？』質問が続きました。「はい、運動会やクリスマス会などでは、一緒に遊べます。私たちも楽しみにしています」赤ちゃんの一人が皇后陛下の帽子の飾りに引かれて、皇后陛下によじ登つて行くと優しく抱きかかえて立ち上がり、笑顔で接する皇后陛下でした。

最後に皇后陛下が『どうぞお身体に気をつけて』と、私たち職員ひとりひとりの顔を覗き込んで声をかけて下さいました。最初から最後迄、人見知り心配な子どもも誰一人泣かずに接する事が出来ました。廻りにおつきや警備の物ものしい男の人がたくさんいたのに、これも、お二人のお人柄なのでしょう。とても優しい雰囲気であまられていたからのような気がしました。



## ◇いちご組保育士 A・N

遊んでいる子どもの側に寄られ、「お誕生日は迎えられたのですか？」とお話され十カ月になるところであることをお伝えすると、「そうですよねえ。なんて可愛いお育てでなんでしょう！よく育てて下さいました。」と、まるでご自分のお子様のように喜んでいらつしやいました。

そして、いつもと違う雰囲気・遊びたいオモチャをお友だちが持っていて自分も欲しいが自由がきかずイライラして、『アゲルアゲル、アゲル——！』（人形）と、さわいでいるのを御覧になり「こんなに人が多くてはびっくりしてしまうわよねえ。」と、子どもが落ち着いてくれるようにオモチャを側に何気なく寄せて下さったり、職員の気持を察していらしたかの様に、お言葉を掛けて下さいました。ご自分のペースで人に関わるので無く、相手の事を十分すぎる程御理解され、労ってくださる方なのだなぁと感激致しました。

お車に乗り込まれた陛下は柵の間から手を振る私たちに気づかれ、ウインドウを下げ「さようなら。頑張って下さいね。」とお声を掛けて下さり手を振られ、お車が動きだされるまでこちらをお気遣い下さっていました。

ほんとうに、国民を愛されておられるのだ！と感激で胸が一杯になりました。



## ◇いちご組保育士 K・K

陛下、美智子さま、部屋へ入ってこられました。職員は、食堂側を背に半円に並び、一対一で子どもを抱えています。眠ってしまった子どもや遊んでいる子どももいましたが、雰囲気は比較的、静かで、おだやかだったように思います。

陛下、美智子さまは、それぞれに分かれ、ひざをおつきになり、職員に話しかけられました。「今、この子は何歳ですか？」の質問に、（私）は、「一歳四カ月です」とこたえました。「このくらい小さいと、いろいろと大変でしょう」と声をかけられ、その言葉を聞いて、緊張が少しほぐれました。

陛下は、子どものことだけでなく、職員の状況についても聞いてこられました。「この施設の職員になってから何年目ですか？」（私）「まる二年たちました」「いち

ばん大変な時ですね」（私）が質問にこたえたことに対して、また、受けこたえて下さいました。最後に「何か心配なことはありますか？」（私）緊張のあまり、「いろいろです……」とこたえてしまいました。そのあとに、「健康が一番だと思えます」と付け加えました。陛下が、他の職員と話をしている間、（私）は、美智子さまを見ていました。その時、美智子さまは、九カ月の子どもを抱いておられました。そのお顔は、とても優しく、おだやかでした。本当に、子どもがお好きなのだなと思いました。

時間になると、陛下、美智子さまは、深くおじぎをし、部屋をでられました。つかのまの緊張でした。

## ◇もも組保育士 Y・N

実際に、お会いする前までは、もつと独特な威圧感があるのかなと思っていました。お二人ともとてもおだやかな方で、笑顔が素敵でした。

美智子様は、私たちの体を気遣うような言葉をかけて下さったりしました。

一番印象深いのは、電話のおもちやで遊んで下さったことです。STくんを抱っこして座っていたのですが、丁度電話のおもちやを持っていました。すると、美智子様が、御自分の耳元に受話機をあてたり子どもの耳元に近づけたり……。又、ダイヤルを回したりと、一緒に遊んで下さいました。子どもの反応は、あまりなかったのですが、とても楽しそうに関わって下さったのが印象的でした。



## ◇もも組保育士 I・S

両陛下、共々、ごく自然に子どもたちに接しておられました。

特に印象的だったのは、しゃがんでおられる皇后様のスカートを後ろで引っぱり遊んでいる子どもを、そっと御自分の方に抱き寄せられる場面や、帰り際に、子どもたちが手を伸ばし皇后様の所まで行くと、振り向き「はーい、あくしゅ」と握り返してくださったのにはとても感動しました。

お茶を御出しした時には、「どうもありがとうございます」「ごちそうさまでした」のお優しい口調のお言葉が、私達の緊張をほぐして下さったような気がしました。

とにかく、失敗せず終える事ができたのがなによりでした。

## ◇もも組保育士 K・M

天皇、皇后両陛下が保育室にお入りになりました。一瞬、空気が静まり、一斉に報道のフラッシュがたかれました。緊張した空気が流れるものと思っていました。緊張が、両陛下の気さくさがそれを感ぜさせませんでした。

それは、見学されるだけでなく、職員一人一人ごく普通に、お言葉をお掛け下さったからだと思っています。

子どもを抱っこしていた私にも気軽に話になり、その目はとても澄んでいて、じつと私の言葉に耳を傾けて下さいました。テレビで拝見するよりも、はるかにやさしさが滲み出ていらしたお二人でした。



## ◇もも組保育士 Y・H

皇后陛下が、女の子をひざに抱いている私に近寄って来られて、「いいわねえ、だっこしてもらって。」「おいくつですか?」に「四月で二歳になりました。」とお答えしました。

その後よくききとれなかったのですが、大変でしょうがお世話を宜しくという様な意味の事を言われたと思います。

## ◇もも組保育士 T・H

天皇、皇后両陛下が入室され、子どもより職員の方が緊張してしまいました。

陛下が私の横に座られ、「この子は何か月ですか?」と聞いて来られました。すっかり何か月か忘れてしまった私は、思わず「六カ月です。」と答えてしまい、言ってから「あー十カ月だった……」と後悔?反省?することになりました。

その後も、私と、隣に居た職員に在職年数をお聞きになり、「大変だと思いますが、頑張ってください。」と御声を掛けて下さいました。

皇后陛下が、退室なさる時、「皆様もお体に気をつけて頑張ってください。(この子どもたちを)宜しく願います。」と御声を掛けて下さいました。

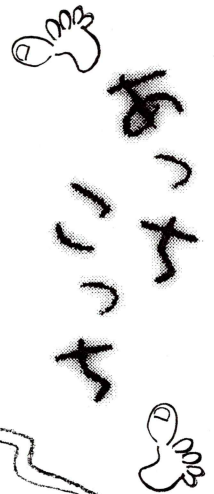
## ◇もも組看護婦 M・W

卒業してすぐに勤めているのかを聞かれたので、以前は病院で勤めていた事をお話しました。「病院と違うでしょう。どうですか?」と聞かれ、子どもたちや諸先生方に日々学んでいる事、子どもたちの成長ぶりを目の当たりにできる幸せを、お話させていただきました。

天皇陛下は終始にこやかで、とても暖かな雰囲気でした。私たちを包み込んでくださいました。

天皇陛下にお会いできただけでも幸せなのに声をかけていただき、一生の宝物になりました。

# 阿佐谷中央公園



住所 杉並区阿佐谷北1・29・24

中央公園は、学園から中杉通りを渡り、遊歩道をつくって歩いて15分くらいの所にあるんだよ。

でも、僕が歩くと1時間くらいかかったりかなあ。

えっ、僕？

僕は2才。学園に来てまだ1か月しか経っていないチビちゃんなんだ。

僕が道路に出ようとすると、先生たちが真っ青になって捜しにくるんだよ。

この前、ファミリーマートまで探検に行ったら、先生たち慌ててみたい。気にしない、気にしない。

ところで、初めて連れて行ってもらった中央公園だけど、途中の遊歩道に面白いものがいっぱい、さわってみたくて仕方ないんだけど……。

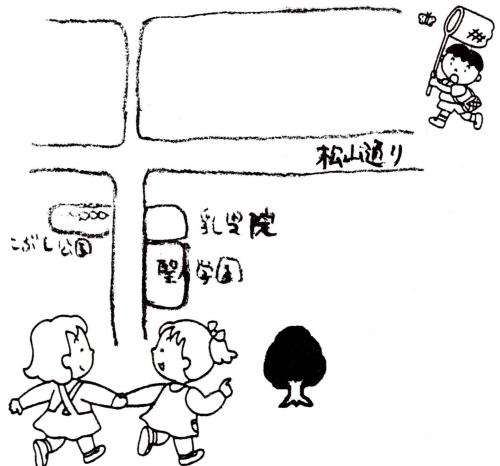
先生は、おてつないで歩けつてうるさいし、出ないのにトイレ行きなさいって言うし、困るんだよなあ、ほんとに。

やっと着いた公園、びっくりしたなあ。中央公園のすべり台、すっこく大きくて、すべったら、パンパース取れそうなほど怖かった！

やほ道

中杉通り

松山通り



すべり台はジャングルジムにつながっていて、砂場に降りられるよ。

それから、ブランコ、くさり、鉄棒、亀や豚の形の石にのって遊べるよ。

公園の入口はバラの花がいっぱい。

大きな木が何本もあるから、大人の方は木陰で読書なーんてオシャレじゃないでちゆか？

今日は、僕の大好きな中央公園を紹介しました。



# このたびはとまれ

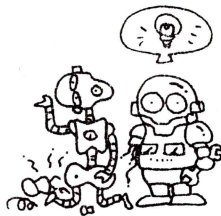
—25号のアンケートより皆様の声を紹介します—

◆東原児童館での子育てシンポジウムに参加させて頂き、その後ぴーちっこを読みました。虐待の話を聞いて気持ちが悪くなっているところ、「ふわふわ」で楽しそうにサッカーをしている子どもたちの写真と、気持ちが伝わってくる文章を読み、とても心が温まる思いがしました。(Hさん)

◆毎日のように新聞・テレビ等で目に付く児童虐待の記事。父になっても親になっていない、母になっても母性欠如、離婚、再婚、様々な要因がもれつ合う中、犠牲になるのはいつも子どもでもあることに憤りを感じます。自由、自由と言って余りにも「我」をのみ大切にされた結果なのでしょう。(Nさん)

◆子どもたちがすくすくと素直に育ってくれるよう願っています。個性の発育と社会性の共有のバランス。教育は大変です。(Kさん)

◆ぴーちっこの名前の由来、わかりました。(Nさん)  
◆この時期にぴーちっこを頂くと、いつも「中の雪」の詩を思い出します。(Mさん)



《学園だより》「中の雪」は第13号のコラムにて世尊院幼稚園の大沢聖隆園長先生にご寄稿いただいたものです。今日の競争社会の中ではあるけれども、子どもの持つやわらかい「心」を感じることを忘れてはいけな、と日々振り返り改めて考えさせられたものでした。これからも皆様の様々な声をお待ちしております。



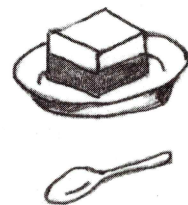
今回は、さわやかなデザートを紹介します。  
学園では、行事、誕生日等いろいろな機会に登場し、子供たちも大好きです。是非、おためしになって下さい。

## ♡ 二色ゼリー 流し型 (15.3×13.8) 1個分 ♡

- 材 料 A. グレープジュース 300cc、ゼラチン大1、砂糖30g (好みで)  
B. 牛乳300cc、ゼラチン大1、砂糖40～60g

### 作り方

- ①ゼラチンをA.B別々に大3の水にふやかしておく。
- ②ジュース、牛乳は各々砂糖に合わせ、火にかけ、砂糖を溶かす。
- ③砂糖が溶けたら、火を止めてゼラチンをいれる。
- ④牛乳の方を型に流しいれ、冷やし固める。
- ⑤④が固まったら、その上にジュースの方を注ぎ、再び冷やし固め、二色のゼリーにする。



「ぴーちっこ」は、今を生きる子どもたちについて皆様と話し合う広場です。  
日頃子どもと接する中でふと気づいたこと、感じたこと、又お悩みになっっていることなど、身近な話題や情報をお気軽にお聞かせ下さい。お待ちしております。

「ぴーちっこ」は年3回発行しておりますが、ご希望の方には毎回ご送付させていただきます。送料等無料です。ご住所・ご氏名・電話番号をご連絡下さい。

「ぴーちっこ」の内容に関するお問い合わせ、寄稿のあて先等は下記のとおりです。

〒166-0001 杉並区阿佐谷北3-28-19

聖友学園ぴーちっこ係

電話 03(33338) 1844

FAX 03(33338) 1894

ありがとうございます。

次の皆様よりご協力を頂きました。厚く御礼申し上げます。

(平成十二年一月〜五月。敬称略)

〈寄付金〉

東和開発(株)、(有)タイスケ、黒岩武士、東日本旅客鉄道(株)有楽町駅長、朝日生命東京西統括支部

〈寄付物品〉

(株)ジャパンエナジー広報部、モンテ物産、東穀協会、(株)ヤクルト球団営業部、(宗)靖国神社祭務部祭儀課、平野久子、島崎真奈美、野田秀雄、中央花壇、進藤洋子、財団法人昭和池田記念財団、中央三井信託銀行荻窪南口支店、三菱商事(株)社会環境室、キリンビール(株)、岩崎元男、上智大学図書館佐藤、江上勝文、原春男、弘中徹

〈パースデーフレンド〉

岡田多み子、二宮徳子、速水敬友、大丸宣昭、三ツ木吉和、村上みき子、村井庸子、中禮子、黒岩武士、梅澤文治、豊島みのり、川村都子、藤川民子、溝口恵美、酒井香子、上田和子、内山健三、嵯峨久美子、中山和子

〈招待〉

東京三菱銀行広報部社会貢献室(スキー)、武尊ペンション協会(スキー)、(有)サンクチュアリ出版鶴巻謙介・F・マリノス岡山一成(ジリーグ観戦)

編集後記

今回は「天皇・皇后両陛下の御視察」という、大イベントによる記念すべき号になりました。

聖友ホーム創設時からの苦難の連続等、今日までの歴史を振り返り、次の世代につなげる絶好のチャンスとなりました。「行幸啓」を通して学んだ多くの教訓は、今後の事業に生かす貴重な財産として大切にしていきたいと思えます。

子どもたちは、取り巻く社会環境によって心と表情は常に変化し、成長や人格の形成に重大な影響を与えています。時あたかも、児童虐待防止法が成立し、子どもの人権・権利を守りサービスの向上のために施設の変革が求められています。

子どもたちが、何を考え感じているのか、どれが本質なのか、早くキャッチして援助しなければ…大人の経験者としてベテランプロとして、子育て、処遇指導技術を磨かねば…その役割を果たさねばと…ついあせってしまいます。

多くの皆様と「共生」の気持ちで行動したいです。

聖友学園園長 宮本正司